

世界を見る眼

【特集】 グローバルサウスと世界

第 5 回 BRICS に中東・アフリカ諸国が加わることの意味——エジプトを事例に考える

Egypt and the BRICS Expansion in the Middle East and Africa

ダルウィッシュ ホサム

Housam Darwisheh

2023 年 12 月

(6,724 字)

*写真は文末に掲載しています

English version follows.

2023 年 8 月、南アフリカのヨハネスブルグで BRICS (ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ) の第 15 回首脳会議が開催され、加盟国として新たに 6 カ国を招待することで合意した。2024 年 1 月 1 日をもって、エジプト、エチオピア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦 (UAE)、イラン、アルゼンチンの 6 カ国が BRICS に加わるのである。サウジアラビア、UAE、イランが加わることで、BRICS は世界の原油生産量の 41%、人口の 46%、国内総生産 (GDP) の 36% を占めることになり、カナダ、フランス、ドイツ、イタリア、日本、イギリス、アメリカからなる主要 7 カ国 (G7) の経済規模を上回ることになる。

世界の多極化が進むなか、中東やアフリカ諸国が BRICS に加わることになった背景には何があるのだろうか。本稿では、エジプトが BRICS に参加することで何を得ることができるのかを考えることで、その答えを探っていく。

BRICS とグローバルサウスの関係

BRICS は 2009 年、アメリカ主導の世界秩序に対抗し、多極的な世界秩序を形成するために、非西欧の新興経済大国によって結成された。BRICS 設立の直接的な契機となったのは、2008 年の世界金融危機 (いわゆるリーマンショック) である。この世界金融危機は、1929 年の世界恐慌以来最悪の景気後退であり、世界経済に深刻な影響を与えた。なかでも低所得の発展途上国は、金融危機の原因とは無関係にもかかわらず深刻な景気後退を経験するなど、

他国よりも大きな打撃を受けた。これ以降、欧米型資本主義経済モデルは多くの批判にさらされるようになる。BRICS が設立当初に要求したのも、世界的な金融システムの再編や欧米主導の国際金融機関における発言力の強化であった。

2023 年の BRICS サミットも、国際機関やグローバル・ガバナンスの改革を求める声が再燃するなか開催されたことで注目を集めることになった。2018 年にドナルド・トランプ米大統領が始めた米中「貿易戦争」につづき、2022 年にはロシアがウクライナに侵攻して戦争状態に陥った。これに対して欧米諸国はロシアに対する経済制裁を発動した。ロシアの中央銀行の資産を凍結したり、ロシアの銀行を国際決済ネットワークの国際銀行間通信協会 (SWIFT) から排除したりするといった形で、ドルベースの世界金融が武器として利用されている。この 2 つの「戦争」は、世界経済のさらなる地政学的分断を引き起こしている。さらに、アメリカの積極的な金融政策が招いたドル高は、食料品やエネルギー価格を上昇させ、グローバルサウスの新興市場により深刻な影響を与えている。

アフリカ、アジア、ラテンアメリカに位置するグローバルサウスのほとんどの国は、ウクライナ戦争や米中貿易摩擦に対して中立的な立場である。これらの国々は、世界の地経学的重心が西欧諸国から中国・アジアに移りつつあることを知っている。彼らは、ウクライナ戦争は「我々の戦争ではない」という姿勢で一貫している。彼らが懸念しているのは、ウクライナ戦争がエネルギーや食糧の需給にどのような影響を与えるかであり、どうやって国民を守り、気候変動に適応していこうかという点なのである。

政治的には、BRICS は米ドル以外を使った貿易を増やすことで、新興経済国の米ドル依存を下げたいと考えている。また、欧米のシステムから独立した、あるいは補完する金融システムの確立を目指している。2022 年 6 月、ロシアのプーチン大統領は、BRICS 加盟国の通貨バスケットに基づく新たな準備通貨を開発すると発表した。それに先立つ 2014 年には、BRICS 加盟国によって上海を本部とする「新開発銀行 (NDB)」が設立されている。NDB は、現地通貨によってインフラ・プロジェクトの資金調達を行うことを目的に、世界銀行に代わるグローバルサウスのための銀行として設立された。この NDB には現在、エジプト、バングラデシュ、UAE といった BRICS 以外のメンバーも加盟しており、ウルグアイも加盟を申請中だ。

BRICS は、欧米に挑戦するグローバルサウスの国際協議体であると自らを位置づけてきた。そうした方向性は、現在の国際的な権力構造から置き去りにされてきたと感じている多くの発展途上国の共感を呼んでいる。しかし、BRICS が今後直面すると思われる課題もある。ひとつは、BRICS 加盟国がグローバル・ガバナンスに求める改革とは一体何なのかを明確にできるかどうか。もうひとつが、BRICS 域内の貿易を前例のない方法で促進するために協力できるかどうか、である。

さらに、BRICS が拡大するにつれ、現メンバーと新メンバーの間に深刻な亀裂が生じる可能性もある。例えば、ロシア、中国、イランといった国はアメリカと対峙する立場をとって

いて、アメリカによる支配やアメリカの外交政策上の利害や目標に正面から対抗する姿勢を鮮明にしているのに対し、インド、ブラジル、エジプト、サウジアラビア、UAE といった他の BRICS メンバーは、欧米との良好な関係や同盟関係を維持しようとするかもしれない。G7 とは異なり、BRICS メンバーには民主主義という共通の政治システムも、自由主義といった共通のイデオロギー的基盤もない。これらの国々に共通しているのは、欧米主導の世界秩序への依存度を下げ、世界の政治・経済・金融システムを再構築しようという点なのである。しかし、拡大した BRICS が、加盟国間でそれぞれ異なる野心、願望、態度を抱えながらどのように運営できるかは、まだはっきりしていない。

BRICS 新規加盟国に中東諸国が選ばれた理由とは？

2023 年の BRICS 議長国である南アフリカによると、[40 カ国以上が BRICS への加盟に関心を示し、20 カ国以上が BRICS への加盟を申請](#)していた。2023 年 8 月のサミットには [71 カ国の代表が招待された](#)。加盟審査のための基準はないが、中東とアフリカの国々が BRICS の新規加盟国に選ばれたのには、いくつかの理由がある。まず最大の理由は、新メンバーがそれぞれの地域で地政学的・地経学的に重要な国であるということである。BRICS は、そうした地域大国をメンバーに加えることで世界的な影響力の拡大を図ろうとしている。

中東からは、サウジアラビア、UAE、イランという産油大国が加わったことが大きい。これら 3 カ国は石油輸出大国であるという点で重要だが、長らく敵対関係にあったイランとサウジアラビアが同時に加盟したことの意味も重要である。この両国は 2023 年 4 月に国交正常化を果たしたが、そこで極めて重要な役割を果たしたのが中国である。これら 3 カ国の BRICS 加盟は、中東地域の安定に対する中国のコミットメントを強調することにもなった。

一方、湾岸協力会議（GCC）諸国も、近年、地域秩序の安定のためにアメリカだけに依存するという考え方に疑問を抱くようになっていた。これら中東の国々は、冷戦終結後、アメリカがアフガニスタン、イラク、リビアに侵攻しながら地域紛争を悪化させ、パレスチナ・イスラエル紛争を含む地域問題の解決にことごとく失敗してきたことをみてきた。GCC 諸国は、アメリカがもはや中東における支配的な覇権国ではないことを認識するようになったのである。それは、[ビル・バーンズ CIA 長官の 2023 年 7 月の以下のような発言](#)を聞けば容易に分かることである。

「もはやアメリカだけが地政学上の大国である世界ではない。……中立的なミドルパワーの重要性が増している。民主主義国か独裁国か、先進国か発展途上国か、グローバルサウスかどうかを問わず、どの国々も戦略的自律性を拡大し、自らの選択肢を増やすために、外交関係を多様化しようと躍起になっている。これらの国々は、単一的な地政学的関係にはほとんどメリットがなく、リスクが大きいと考えている。」

中東に強力な軍事的プレゼンスを有するアメリカは今後も GCC 諸国に安全保障を提供す

る存在であり続けるであろうが、一方で GCC 諸国は、中国やインド、韓国、シンガポールなどのアジア諸国が台頭したことに対応する形で、何年も前から「ルック・イースト」政策をとってきた。これらアジア諸国も、石油や天然ガスの必要性から、貿易や投資などを通じて中東に接近してきた。アメリカがエネルギー自立化を進めていることから、GCC 諸国は西側諸国とも BRICS 加盟国とも関係を深めることで利益を得ようと考えているのである。

BRICS 新規加盟国にアフリカ諸国が選ばれた理由とは？

今回、アフリカからは北アフリカを代表するエジプトと、「アフリカの角」¹と呼ばれる地域を代表とするエチオピアが新たに加盟した。南アフリカにこの2カ国が加わることで、アフリカは BRICS において大きな発言権を持つことになった。

エジプトの重要性は、その地政学上の位置とスエズ運河を所有しているところにある。中東・北アフリカ地域には地球上で最も重要な貿易ルートが通っているが、とくに地域貿易と世界貿易にとって重要なのは、地中海と紅海、インド洋を結ぶスエズ運河である。世界の輸送コンテナのおよそ30%がスエズ運河を通過し、これは世界貿易の約12%を占めている。スエズ運河の南、紅海からアラビア海に入るところには、イエメン沖のバブ・エル・マンデブ海峡という戦略的要衝があり、毎日600万バレル以上の石油がここを通過している。エジプトが BRICS に加盟することで、スエズ運河の安全保障に対する懸念が和らぐのである。

また、人口1億人を超えるエジプトは、巨大な消費財市場として成長を続けており、ビジネスや投資にとっても魅力的である。このため、GDP が他の加盟国合計の2倍以上ある BRICS の大国・中国にとってエジプトは重要な存在となっている。過去10年間で、エジプトと中国の関係は、「一帯一路」構想 (BRI)、港湾開発や運営への中国企業の参画、軍事協力など各方面で顕著に拡大してきた。

同様に、人口1億人を超えて急成長中のエチオピアは、中国がインフラ・プロジェクトに数十億ドルの資金を提供していることに表れているように、BRI の戦略上、東部アフリカにおける最重要国である。アフリカ連合 (AU) の本部もエチオピアの首都アディスアベバに置かれている。そのうえ、エチオピアは、国際河川の上流域にあることから水力発電の大きな潜在力を持っており、東アフリカ全域に政治的影響力を及ぼしうる存在でもある。

BRICS 加盟におけるエジプトの狙い

エジプトは基本的に西側寄りの国家である。ただし、中東と北アフリカにおける地政学的中心に位置するため、政治指導者は域外国の間でバランス外交を展開し、大国間競争をうまく利用することができた。エジプトの外交政策は、自国の経済的弱点や海外援助(特に融資)への依存という問題にどう向き合うかという問題と密接に関連している一方、地域の安全保

障と**政権・政治エリート**の安定をどう確保するかという問題とも絡み合ってきた。

エジプトは、BRICS に加盟することで国際金融機関へのアクセスを拡大し、外国投資の流入を増やし、深刻化する外貨不足と経済危機を緩和しようとしている。近年では、ロシアのウクライナ侵攻が、小麦価格の高騰、輸入コストの上昇、外貨準備高への圧迫といった問題を引き起こし、**エジプト通貨の価値に大きな影響を与えている**。2022年3月から2023年8月にかけて、**エジプト・ポンドは対ドルで約50%も減価した**。このような経済的に厳しい状況のなか、エジプトは、BRICS に加盟することによって、**投資機会を増加させる**ことができると考えているのである。

エジプトにとって最大の貿易相手国でもあり投資国でもある中国は、**新行政首都、スエズ運河特別経済区**、発電所などインフラ建設のための投資や融資を数十億ドルの規模で行っている。エジプトと BRICS 創設国および新規加盟国との貿易は、同国の**対外貿易総額の3分の1以上に達する**。エジプトの中央動員統計局（CAPMAS）によると、2022年にエジプトの輸出先国として BRICS の中で1位だったのはインドで、2位が中国だった。CAPMAS のデータによると、BRICS 諸国からエジプトへの投資は、**2020/2021 会計年度の6億1090万ドルから2021/2022 会計年度には8億9120万ドルへと45.9%増加した**。

エジプトは、BRICS に加盟すれば、NDB を通じてより**容易に資金調達を行える**ようになることも期待している。なぜなら、NDB はインフラ建設や開発プロジェクトを実施する加盟国に対して、国際通貨基金（IMF）よりも緩やかな条件で借款（ソフトローン）を提供してくれるからである。エジプトの政治指導者たちは、将来的に BRICS 加盟国との間で自国通貨建ての貿易が増えれば、外貨圧力が低下し、**米ドルに対する需要が減少する**ことも期待している。2023年8月には**インフレ率が前年同月比で40%**という過去最高を記録し、食料品・飲料品価格だけでみれば**71.9%を記録した**が、BRICS に加盟することによってこうしたインフレも抑え込むことができるかもしれない。

エジプトは世界最大の小麦輸入国で、その80%近くがロシアとウクライナから輸入されている。その小麦を原料とするパンの値段は、エジプトでは非常に重要な問題である。人口の30%以上が貧困ライン以下で生活していることもあって、政府は何十年もの間、パンに対して補助金を出し、その価格をきわめて低く抑えてきた。パンの価格を引き上げることが社会不安につながるということは、1977年の「パン蜂起・暴動」²ですでに証明されている。エジプトを30年近く支配したホスニ・ムバラク大統領を失脚させた2011年の大衆蜂起の**スローガン**（パン、自由、尊厳）の最初の言葉がパンだったのも偶然ではない。エジプト、ロシア、インドは、**小麦や米を自国通貨で取引することについて話し合っている**。このような措置が実施されれば、エジプトは BRICS を通じて戦略物資の基本的ニーズを満たすことができるようになる。前回の BRICS サミットでエジプトは、食料安全保障を確保し、戦略的な備蓄を維持するために、国内に世界的な穀物貯蔵センターを設立する提案を行ってもいい。

エジプトの進むべき道

中東と北アフリカの国々が、多極化が進む世界にあわせて外交政策を調整することは当然である。西側諸国との強固な関係を維持すると同時に、アジアやグローバルサウスで生まれつつある新たな機会を活用しようとしているのだ。これが、エジプト、サウジアラビア、UAEがBRICSに加入する背景となっている。エジプトのメディアや世論は、BRICS加盟を自国の経済危機を解決するための政治的勝利と見なしている。

しかし、BRICSに加盟するだけでは、苦境にあるエジプト経済の解決策にはならない。エジプトは過去10年間に借金を繰り返した結果、2015年に400億ドル以下だった対外債務は2022年12月には1629億ドルにまで増えてしまった。エジプト・ポンドは2022年3月以降、対ドルで50%以上も減価している。現在エジプトは、約50億ドルの新規融資に向けてIMFと協議中だが、大きな障害となっているのが通貨管理だ。基本的に、IMFや他の債権国は、エジプトがさらに通貨を自由に変動させることを望んでいる。しかし、これはインフレを悪化させ、エジプト国民が食料品やその他の基本的必需品を買うことを困難にさせるのである。

エジプトは、外貨獲得手段として、スエズ運河からの収入、海外で働くエジプト人からの送金、そして観光業に大きく依存しているため、世界的な経済危機や地域の混乱に対して脆弱である。エジプトがBRICS加盟から有意義な結果を得るためには、慢性的な貿易赤字（財輸入は財輸出のほぼ3倍）、外貨不足、対外借入金が過去8年間で4倍になった結果として積み上がった多額の対外債務返済といった問題を解決しなければならない。BRICS加盟国への輸出額は約50億ドルだが、BRICS加盟国からの輸入額は260億ドルを超える。つまり、BRICSに加盟することによる輸出や投資の機会を活かすためには、エジプトは製造業の力を構築し、BRICS加盟国のサプライチェーンとの統合を進めることで競争力を向上させ、BRICS加盟国との貿易バランスを再構築する必要があるだろう。■

(翻訳 川村晃一)

※この記事の内容および意見は執筆者個人に属し、日本貿易振興機構あるいはアジア経済研究所の公式意見を示すものではありません。

写真の出典

PMO India (CC BY 3.0)

著者プロフィール

ダルウィッシュ ホサム (Housam Darwisheh) アジア経済研究所 地域研究センター 中東研究グループ研究員。博士(学術)。専門は、エジプト政治、社会運動、中東政治。現在は、

ナイル川流域における水資源の共有をテーマに、周辺の国々が流域国間の関係に及ぼす影響や、水資源の共同利用における流域国の政策などに焦点を当てながら、国際関係学の視点で研究に取り組んでいる。

注

¹ 「アフリカの角」とは、インド洋と紅海に向かって「角」のように突き出ているアフリカ大陸東部地域のことを指す。この地域は、紅海とアデン湾への主要な入り口であるため、世界で最も戦略的に重要な地域のひとつと見なされている。

² 1977年1月、小麦粉、食用油やその他の生活必需品の価格を値上げするという政府の決定が引き金となり、エジプト全土の主要都市でこの決定に反対する民衆の暴動が起きた。政府は軍の支援を受けて、暴動を容赦なく鎮圧し、多数の死傷者が出た。政府が食糧補助金を復活させ、補助を拡大したことで、「パン蜂起・暴動」は終結した。

Egypt and the BRICS Expansion in the Middle East and Africa

Housam Darwisheh

December 2023

In August 2023, in Johannesburg, South Africa, the leaders of the BRICS (Brazil, Russia, India, China, and South Africa) bloc held their 15th summit and agreed to invite six new countries to expand the BRICS membership. As of January 1, 2024, Egypt, Ethiopia, Saudi Arabia, the United Arab Emirates, Iran, and Argentina will join the bloc. With the addition of Saudi Arabia, the United Arab Emirates and Iran, the expanded BRICS will account for 41 percent of global crude oil output, 46 percent of the world's population and 36 percent of global GDP, surpassing the Group of Seven (G7) wealthy economies (Canada, France, Germany, Italy, Japan, the United Kingdom and the US). In an era of a broader shift to a multipolar order or multi-aligned world, what lies behind the BRICS's expansion by the Middle Eastern and African countries? In particular, what can Egypt gain from joining the bloc?

BRICS and the Global South

The BRICS was formed in 2009 by major non-Western emerging economies to counterbalance the US-led world order and foster a multipolar world in which they can play a more central role. The BRICS was established after the 2008 global financial crisis, the worst economic downturn in the USA since the Great Depression which posed a serious threat to the global economy. The BRICS initially demanded a global monetary shakeup and a louder voice in Western-led international financial institutions. Since then, the Western economic capitalist-led model has come under a lot of scrutiny given the impact of the 2008 crisis on the global economy. Low income developing countries were harder hit than others and experienced “severe economic downturns disproportionate to their roles in the crisis.”

The 2023 BRICS summit gained momentum and attention amid the USA-China “trade war,” that began in 2018 with moves by President Donald J. Trump and continued after the Russian invasion of Ukraine in 2022. These two events led to a further geopolitical fragmentation of the global economy with the imposition of Western economic sanctions on Russia and the weaponization of the dollar-based global finance such as freezing Russia's central bank assets and cutting Russian banks off from SWIFT. In addition, the strengthening of the US dollar, caused by aggressive US monetary policies, disproportionately affected emerging markets of the “global south” due to higher food and energy prices, and renewed calls for the reform of

the international institutions and global governance.

Most global south countries in Africa, Asia, and Latin America were neutral on the war in Ukraine and the USA-China trade rivalry. They know that the world's center of geo-economic gravity is shifting from the West towards China and Asia. They have decided that the Ukraine war "is not our war". What concerns them is the impact of the war on energy, food, and their ability to protect their people and adapt to climate change.

Politically, the BRICS wants to reduce the emerging markets' dependency on US currency by increasing trade outside the US dollar. They look to establish financial systems that are independent from or complement the Western system. In June 2022, the Russian president, Vladimir Putin, announced that the BRICS would develop a new reserve currency based on a basket of currencies for its member countries. The BRICS members sought to finance their infrastructure projects in local currencies through the Shanghai-based New Development Bank (NDB), which they established by BRICS members in 2014. The NDB was created as a global south-oriented alternative to the World Bank. In fact, the bank now has a larger membership than the BRICS. The NDB's other members include Egypt, Bangladesh, UAE, and Uruguay is in the process of joining the bank.

The BRICS bloc has presented itself as a Global South vehicle to challenge the West. Its agenda resonates with many developing countries that feel marginalized by the current international power structure. However, the tasks ahead depend on two issues: What exactly are the reforms that BRICS members want in global governance, and can they cooperate to promote intra-BRICS trade in unprecedented ways?

Moreover, as BRICS expands, there may be serious divisions among its current and new members. For instance, whereas Russia, China and Iran are adversaries of the USA and are determined to challenge US dominance and foreign policy interests and agendas, other BRICS members, namely, India, Brazil, Egypt, Saudi Arabia, and UAE, may try to maintain good relations and an alliance with the West. Unlike the G7, BRICS members do not have a similar governance system or a common ideological ground. Rather, they are trying to restructure the global political, economic and financial architecture in ways to make them less dependent on the USA and the Western-led global order. It remains to be seen, however, how the expanded BRICS can operate with their different ambitions, aspirations and attitudes.

The rationale of adding new members from the Middle East to the bloc

According to South Africa, [over 40 countries expressed interest in joining the BRICS](#) and [over 20 countries formerly applied to join the bloc](#). [Representatives from 71 countries were invited](#) to the August 2023 summit. Despite the lack of admission criteria for evaluating new entrants, there is some rationale behind the selection of countries from the Middle East and Africa to the BRICS. The first thing that stands out is the geopolitical and economic importance of the new members in their regions or sub-regions, through which the bloc seeks to expand its global reach.

Bringing in three large oil-producing countries -- Saudi Arabia, United Arab Emirates, and Iran -- is significant. Not only they are large oil exporters but Iran and Saudi Arabia have been enemies for long. In April 2023, China played a pivotal role in normalizing diplomatic relations between Iran and Saudi Arabia, underscoring its commitment to regional stability in the Middle East.

For some time now, the Gulf Cooperation Council (GCC) states had questioned the wisdom of being solely dependent on the USA which, since the end of the Cold War, had exacerbated many regional conflicts by invading Afghanistan, Iraq, Libya and failing to solve regional problems in the Middle East including the Palestinian-Israeli conflict. They know that the US is no longer the dominant hegemon in the Middle East. Bill Burns, the head of the CIA, once [said](#) in July 2023 “it is a world in which the US is no longer the only big kid on the geopolitical bloc.” He added “the weight of the hedging middle is growing. Democracies and autocracies, developed and developing economies, and countries from the Global South and other parts of the globe are intent on diversifying their relationships in order to expand their strategic autonomy and maximize their options. These countries see little benefit and lots of risk in monogamous geopolitical relationships.”

With a strong military presence in the Middle East, the USA will remain the security guarantor for the GCC states, but the latter also began looking East many years ago with the rise of China and other Asian countries, such as India, South Korea, and Singapore, all of which needed oil and gas and have been coming on to the Middle East with trade, investments and so forth. In addition, against the backdrop of the USA’s becoming more energy independent, the GCC states want to get the benefits from deeper relations with West and BRICS members.

The rationale of adding new members from Africa to the bloc

Egypt and Ethiopia, both the Horn of Africa¹ (often considered the most strategically important region in the world as it is the primary entrance to the Red Sea and Gulf of Aden) and North Africa are now represented in the BRICS. Indeed, the addition of Egypt and Ethiopia to South Africa will give Africa a significant representation in BRICS.

Egypt holds a geo-strategic importance due to its strategic location and control of the Suez Canal, a critical waterway for regional and global trade that connects the Mediterranean Sea to the Red Sea and the Indian Ocean. [Roughly 30 percent of all the world's shipping containers go through the Suez Canal, representing about 12 percent of the global trade of all goods.](#) Crucially, south of the Suez Canal, where the Red Sea enters the Arabian Sea, there is a strategic choke point known as Bab el-Mandeb Strait right off the coast of Yemen, where more than [6 million barrels of oil go through every single day.](#) Egypt's inclusion in the BRICS would ease concerns about the security of the Suez Canal.

For that matter, Egypt's population of over 100 million people forms a huge and growing market for consumer goods and an attractive market for business and investment. This makes Egypt important to China, the BRICS dominant player whose GDP is more than [twice the size of the other members combined.](#) Over the last decade, China's 's [Belt and Road Initiative](#) (BRI), maritime presence and [military ties](#) with Egypt have grown noticeably.

Similarly, the rapidly growing Ethiopia with more than 100 million people is crucial to the BRI as it is the demographically most important country in Eastern Africa. Ethiopia is also the diplomatic seat of the African Union to which [China has extended billions of dollars in financing for infrastructure projects.](#) Besides, the enormous hydropower potential Ethiopia has from its rich river basins that flow to many downstream riparian states grants Addis Ababa political leverage across East Africa.

Egypt's aims to join BRICS

Egypt is primarily a Western-aligned state. Its geopolitical centrality in the Middle East and North Africa enables its leaders to balance between external powers and to take advantage of great power competition. Egyptian foreign policy is, on the one hand, closely associated with its economic weakness and dependency on foreign aid, [especially loans](#), and, on the other hand, aimed at preserving regional security and [ensuring regime stability.](#)

By joining BRICS, Egypt seeks to expand its accessibility to international financial bodies and increase the inflows of foreign investments to ease its worsening hard currency shortage and economic crisis. The Russian invasion of Ukraine impacted Egyptian currency valuation as it sent wheat prices spiraling, increased the cost of imports, and piled pressure on its foreign currency reserves. Between March 2022 and August 2023, the Egyptian pound lost about 50 percent of its value against the dollar. Egypt believes that its BRICS accession would bring investment opportunities.

China, one of Egypt's largest trading partners and investors, has billions of dollars of investments in Egyptian infrastructure and loans for its construction of the New Administrative Capital, the Suez Canal Economic Zone, and power plants. Egypt's trade exchange with BRICS founding and new members amounts to more than a third of the country's total external trade. According to Egypt's Central Agency for Public Mobilization and Statistics (CAPMAS), India came at the top of the list of the highest BRICS countries importing from Egypt during the year 2022, while China was second. Data from CAPMAS revealed that investments from BRICS nations in Egypt surged 45.9 percent from \$610.9 million in the fiscal year 2020/2021 to \$891.2 million in 2021/2022.

Through BRICS membership, Egypt seeks easier accessibility to finance (with less stringent fiscal conditionality than that of the International Monetary Fund) via the BRICS's NDB which provides soft loans to its members to implement infrastructure and development projects. Egyptian leaders hope that any future increase in trade with BRICS members in local currencies can lower its foreign currency pressure and decrease its demand on the US dollar. All this could reduce inflation which reached a new high of 40 per cent in August 2023 with food and drink prices alone registering a 71.9 increase compared to August 2022.

Egypt is the largest importer of wheat in the world where almost 80 percent come from Russia and Ukraine. The cost of bread in Egypt cannot be overstated: over 30 percent of its population live below the poverty line. The government has subsidized bread and kept its price ridiculously low for decades. But to raise the price of bread could lead to social unrest, the last one being in 1977.² It is also no coincidence that bread was the first word of the 2011 popular uprising's slogan (Bread, Freedom, and Dignity) that led to the ouster of President Hosni Mubarak who ruled Egypt for almost 30 years. Egypt, Russia, and India have discussed trading wheat and rice in national currencies. Such a step, if it is implemented, will supply Egypt with the basic needs of strategic goods through BRICS. During the last BRICS summit, Egypt put

forth a proposal to establish a global grain storage center within its borders to ensure food security and maintain a strategic reserve.

Egypt: the way forward

It is rational for the Middle East and North Africa to adjust their foreign policies in a world that is becoming increasingly multipolar. While maintaining strong relations with the West, they seek to capitalize on new opportunities emerging in Asia and the Global South. This provides the context for Egypt, Saudi Arabia and UAE to enter BRICS. The Egyptian media and public debate have portrayed BRICS membership as a political victory that could solve the country's economic crisis.

However, joining BRICS alone is not the solution to Egypt's struggling economy. Egypt's borrowing spree over the last decade has increased foreign debt to \$162.9 billion in December 2022 from under \$40 billion in 2015. The Egyptian pound has lost more than 50 percent of its value against the dollar since March 2022. Currently Egypt is in talks with the IMF for a new loan of about 5 billion dollars, and the major stumbling block has been currency management. Basically, the IMF and other external creditors want Egypt to further float its currency, which would exacerbate inflation and make food and other basics very difficult for Egyptians to afford.

Egypt is vulnerable to global economic crises and regional turmoil due to its heavy reliance on tourism for hard currency, along with revenues from the Suez Canal and remittances from Egyptians working abroad, all of which depend on global trends. To achieve any meaningful results from joining the BRICS, Egypt must deal with its chronic trade deficit (its imports of good are almost three times its exports), foreign currency shortage, and substantial foreign debt repayments after its external borrowing quadrupled over the past eight years. While the value of Egyptian exports to BRICS countries is about USD 5 billion, its imports from the bloc exceed USD 26 billion. In short, to exploit the export and investment opportunities of the BRICS membership, Egypt must build its productive capacity, improve its competitiveness by integrating more with the supply chains of the BRICS countries, and rebalance its trade with BRICS members. ■

** The views expressed in the document are those of the author(s) and neither the Institute of Developing Economies nor the Japan External Trade Organization bears responsibility for them.*

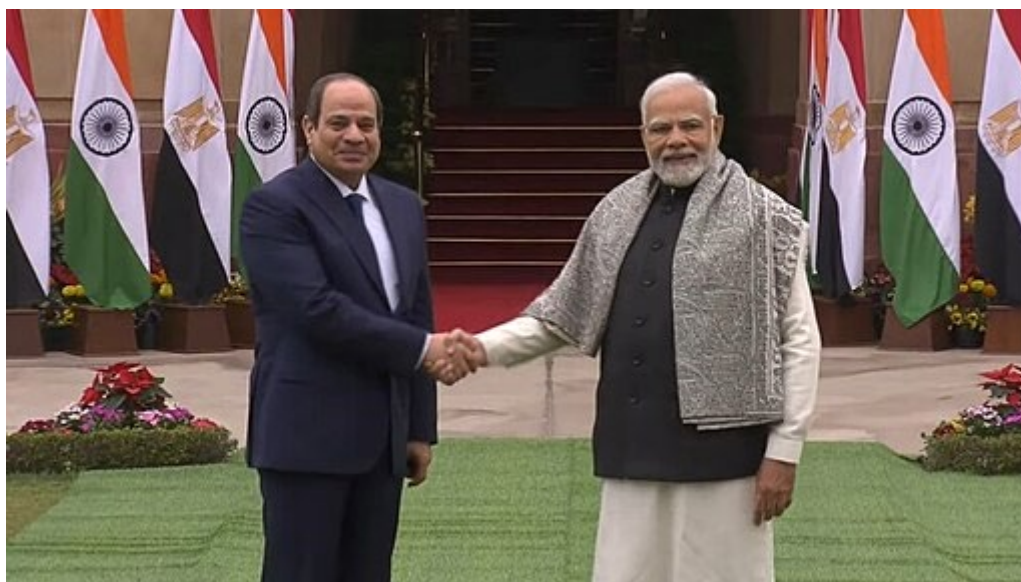
About the Author

[Housam Darwisheh](#) Resercher, Middle Eastern Studies Group, Area Studies Center, IDE-JETRO. Research fields are Egyptian politics, Social Movements, Middle East Politics, Comparative Politics, International Relations.

Notes

¹ The Horn of Africa refers to the eastern region of the African continent that juts out like a "horn" toward the Indian Ocean and the Red Sea. This region is considered one of the most strategically important regions in the world because it is the main gateway to the Red Sea and the Gulf of Aden.

² In January 1977, triggered by the government's decision to raise the prices of flour, cooking oil, and other daily necessities, popular riots broke out in major cities across Egypt in opposition to the decision. The government, with the support of the military, relentlessly suppressed the riots, resulting in numerous casualties. The "bread uprising and riots" ended when the government reinstated food subsidies and extended assistance.



インドのモディ首相と会談したエジプトのアブドゥルファッターハ・エルシーシ大統領（左）（2023年1月25日）